

平成25年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)

1対1対談(木曾岬町)会議録

1. 開催日時：10月15日(火)11時00分～12時00分
2. 開催場所：三重県木曾岬干拓地わんぱく原っぱ
3. 対談市町長名：木曾岬町(木曾岬町長 加藤 隆)
4. 対談項目：
 - (1) 木曾岬干拓地の今後の土地利用等について
 - (2) 一級河川鍋田川の管理について

5. 会議録

(1) 開会あいさつ

知事

本日は、町長、お忙しい中にお時間をいただきまして、ありがとうございます。

この地に立って、少し小雨が降っておりますが、思いを込めての対談にできればと思っております。木曾岬町さんは、今年が町制25周年という大変記念すべき年であると伺っております。11月には町制の25周年の記念式典も開催されるということで、私もありがたいことにお招きをいただきまして、お邪魔をさせていただきたいと思っております。

併せて、町長が力を入れていただいている防災ということも配慮して、新庁舎の複合施設としての建設も進めていただいていると聞いております。町民の皆さんに対して、安心安全を感じていただけるようにご努力をなされていることに改めて敬意と感謝を申し上げたいと思います。

また、先般の三重テラスのオープニングにあたりましては、町長にもお越しをいただきまして激励をいただきました。ぜひ、木曾岬町、今日はここにトマッピーも来ておりますが、トマトをはじめ木曾岬町のものもどんどんPRできる場としてご活用いただきたいと思いますし、我々も連携してやっていきたいと考えております。

思い返せば、私が知事にならせていただく前もそうですが、知事にならせていただいて就任3箇月後、7月末だったと思っておりますが、この木曾岬干拓地に来させていただいて、その端に立たせていただきました。そのときに町長とお話をさせていただいて、その海に向かって右側には長島の元気な姿、そして左側には、当時、今ほどに景気の状態が良くなってきてはおりませんでしたけど、名古屋港の活性化した状況、そういう中で、この背後にあるこの木曾岬干拓地の状況について想いをいたしたところでありまして、先般、皆さんのご協力により、今日も議題の中に出てきますが、この土地利用の第一

歩ということでメガソーラーのことについて進めてきておるわけでありませう。

関係者の皆さんのご協力を得て現在進めているところでありますが、その点をさらに有意義に町民の皆さんのためにとということも含めて、また、県民の皆さんにとってもいいようにと、今日も有意義な議論をできればと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、今日はよろしくお願ひします。

木曾岬町長

皆さん、おはようございます。今日は、私ども木曾岬町と三重県鈴木知事様との「1対1対談」ということで、忙しい日程の中でわざわざご来町いただき、この時間をいただきました。本当にありがとうございます。

今日の1対1対談に臨むにあたって、知事さんからさつきおっしゃっていただきましたが、私としては、知事さんが就任直後にこの木曾岬干拓に入っただけで、木曾岬干拓の実情を見ていただきました。それが一つの大きなきっかけとなってメガソーラーの誘致に結びついたのであるかという思いがございました。

ちょうど今年、この5月にまず「わんぱく原っぱ」がオープンいたしましたし、それに続いて、メガソーラーの建設工事も7月からいよいよ始まったということで、せっかく知事さんにお越しいただくなら、この木曾岬干拓の現場の地へ立っただけで、そして、知事さんとの意見交換「1対1対談」をさせていただければとの思いから、会場をここに設定させていただきましたが、残念ながらあいにくのお天気でございますが、そのあたりはお許しをいただきたいと思ひます。

また、平素は本当に木曾岬町の町政各般にわたって知事さんにはご高配をいただいておりますことをお礼を申し上げたいと思っておりますし、また、ご挨拶にもございましたが、木曾岬は町制施行から25周年ということで、それを記念して記念式典を11月4日に執り行わせていただくこととしておりますが、そこに知事さんにお越しをいただけて記念講演をお願いしたところ、本当に快くお引き受けいただきました。本当にありがとうございました。

私ども木曾岬町は、特に愛知県との県境地にある町でございますだけに、県さんとのしっかりとした信頼と連携を密にして、これからの町づくり、特に一体的な地域づくりというものを県さんのお力をお借りしながら進めていくのが、私どものこれからの進むべき道だと思っております。そのようなことから、今日は、その県境の地、木曾岬干拓の地において1対1対談ということでございます。

それぞれの課題を私どもからお願いをさせていただいておりますが、議題

ごとにお話を1つずつ進めさせていただきますので、知事さんには、私ども非常に期待をさせていただいておりますので、前向きなお考え、ご意見、そしてまた、方針をお示しをいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、座って進めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

今日は、本当にありがとうございます。

(2) 対 談

1 木曾岬干拓地の今後の土地利用等について

木曾岬町長

まず、木曾岬干拓のことをございますが、おかげ様と「わんぱく原っぱ」もオープンし、そして、メガソーラーの工事もいよいよ始まってきたということで、私ども木曾岬町民にとっては、本当に40年来の長い待ちに待った土地利用がいよいよ本格的に動き出したという実感がいたしますし、今、対談をさせていただいてましても、工事用のダンプ等の車両が続々と入ってきています。躍動感を感じるので、私も本当にうれしゅうございます。

その中で、特にメガソーラーの誘致にあたって、私ども木曾岬町としては、メガソーラーそのものの評価というもの、次なる展開がどう展開していただけるか。そしてまた、このメガソーラー事業が地元はどう経済やらあるいはまた産業に波及効果をもたらすか、これによってメガソーラーそのものの評価も決まってくると、そのようなことを当初申し上げました。

そのようなことから、今日はまず、地元地域への貢献について、知事さんにお考えをお聞きしたいと思っておりますが、その中でまず第1点目は、現在、既に始まっておりますが、この建設工事に向けて私ども町内の企業さん、なんとかこの建設工事に対して協力をさせていただけないかと。また、地元町内にあるものを最大限活用していただきたいということで、いわゆる地域貢献、地元貢献を当初からお願いをさせていただいておりましたが、そこらあたりについて、私ども、こうやって現実に進んでくる中で、それぞれ企業さんが参画をさせていただいておるということもお話をいただいておりますし、丸紅さんとも連絡を密にさせていただいて、特に丸紅さんは町とも、あるいは特に木曾岬町の商工会さんとも連絡を密にさせていただいて、そこらあたりについては本当に誠意を持って対応をしていただいている中ではございますが、どうももう一つ実態としてかみ合わない、あるいは、なかなか具体的なものが見えてこないというようなことで、町内からもそんな声も聞いて

おりますだけに、この地域貢献について、まず、知事さんから話をお聞きしたいと思っておりますが、よろしく願いいたします。

知 事

まず、今、お越しいただいてる方々に、町長はよくご存じですがけれども、状況も含めて改めてご説明させていただきますと、この7月22日から工事に着手となりました。現在は、伐採、除草、整地、基礎工事が進んでいるところです。ちなみに、この9月末現在までに従事した工事関係の従業員の人数は、延べ約1,500人ぐらいになるという状況ですが、それにあたりましては、5月24日に木曾岬の商工会の皆さん、そして、桑名商工会議所の皆さんにご協力をいただいて、地元の企業の皆さんに説明会をさせていただいて、丸紅さんのご提案の中にも地元企業を最大限積極的に活用していくというふうに言っていただいておりますから、まさにこれから具体的にそういういろいろな契約や取引が進んでいくのかと思っております。

そして、5月31日だったと思いますが、丸紅さん100%出資で木曾岬メガソーラー株式会社、SPC（特別目的会社）をこの木曾岬に設置をしていただきました。

そのような形で今進めているところですが、どういうふうにこのメガソーラーを地域の活性化につなげていくかということについては、もちろん事業者たる丸紅さんのご努力はすごく大きい部分はあるものの、今、2つの協議会が回っています。1つは木曾岬干拓地土地利用検討協議会で、メガソーラーのところだけじゃなく、この「わんぱく原っぱ」の土地の高度利用や、それ以外のことも含め副知事をトップにして町長や桑名市長にも入っていただいて、木曾岬干拓地の土地利用全体をどうするかという協議会、これは昨年発足させていただいたものです。

それが1つと、もう1つは、「みえスマートライフ推進協議会」という会議の下に「メガソーラー地域活性化研究会」という、これは今年の2月に立ち上げて、これまで3回開催していますが、このメガソーラーの事業をどうやって地域活性化に結び付けていくかという研究会です。この大きく2つの会議が回っています。今の地域貢献の部分については、メガソーラー地域活性化研究会で、地元の市町の皆さんや事業者の皆さんや、もちろん県も入らせていただいて、今、議論を進めさせていただいております。これまでに3回開催させていただきました。

あと、大分県のメガソーラーも視察に行っていたりとかしている状況です。

それから、元々地域貢献ということでいけば、防災とか環境教育というこ

とが丸紅さんの提案の中にもあったと思いますが、防災の関係は災害時の非常電源の確保ということで、売電用のメガソーラーとは別に50キロワットぐらいの太陽光発電を設置して、それを地元の皆さんに利用可能にするとか、あと、環境教育のところは、既存の池を利用して太陽光パネルを一望できる見晴台を設置して、体験型の環境エリアを作るというようなことも考えていただいています。

あと、元々我々が、丸紅さんの提案の中で特に期待をしていた総合商社の強みを生かして、このメガソーラーのことだけではなくて、地元の中小企業の発展につながるような貢献をしていただきたいというようなことを申し上げてきたわけですが、9月10日に、特に中小企業の皆さんに総合商社の強みを生かして海外展開のこととか、販路開拓のこととか、そのようなことに関する勉強会、講演会をやっていただきました。

そういう意味では、確かに地元の皆さんからすれば、今、工事が少し動き出したということですので、そのメガソーラーのパネルが張られて、地域貢献で町民の皆さんも全員がご認識いただくようなところには、まだスタートしたばかりで見えてないということはあると思いますが、今、申し上げたような形で、メガソーラー地域活性化研究会を中心に、地元の木曾岬町さんや桑名市さんのお話も聞きながら、どういうふうに地域貢献をしていただくか、さらにこれから具体的に、県も主体的にコミットして検討していきたいと考えています。

あとは、我々も具体案がまだですが、丸紅さんの提案の中には、ナガシマリゾートというものとも連携した観光振興みたいなものもありましたので、我々も提案に上げていただいているものの具体化に向けて知恵を出してやっていきたいと思っています。

そういう意味で、まだ進捗途中ということで、今の状況のご説明になりましたが、県も主体的にコミットして参画して、メガソーラーが第一歩なんだというようなこと、町長と同じ認識ですから、そういう想いで進めていきたいと思っています。

木曾岬町長

地元貢献の建設工事の関係につきましては、どうももう一つ具体的に個々に下のほうにお話がまだ伝わっていないという部分がありました。直前に私、確かめました。かなり丸紅さんのほうがそこらあたりはしっかりと今対応していただいております。どうぞありがとうございます。いずれにしても、私どもとしては、これに非常に町内の企業さんが期待をいただいておりますので、ぜひ、またフォローをしていただけたらと思っております。

今の地域貢献の中で、私どもとしては、次なる展開、特に総合商社の丸紅さんを私どもとしては非常に大きく期待しておりますが、企業誘致とか、あるいは、先ほど知事さんが環境教育の面からもおっしゃいましたが、これも見晴台程度ではなくて、子どもさんたちがそういった社会見学とか体験学習をする一つの拠点になるようなものを考えていただけると、隣の長島町さんには長島温泉もあります、国交省の木曾三川公園、カルチャービレッジ、輪中の里など、社会見学や体験学習のすばらしい拠点がございますので、そこらと一つの動線と考えれば、この木曾岬干拓のわんぱく原っぱ、あるいはこのメガソーラーのあたりも、一つのそういった体験学習のいい拠点になるのではないかなと思っておりますので、そこらあたりもできましたら丸紅さんにさらにご一考いただけたらと思っております。

地域貢献にあまり時間を取るわけにはいきませんが、次に、わんぱく原っぱをこの5月にオープンしていただきましたが、これは供用後5年というお約束がございますので、私どもとしては、これから5年というよりも、5年はすぐでございますので、5年を目途に今から土地利用なり、本格的な具体的な企業誘致の取組を県さんのほうにさせていただく時期に来ているのではないかなと思っております。特にそれについては、後で議題にしておりますが、道路の問題も当然リンクしてきますので、一日も早く具体的な5年後の土地利用についてお取り組みをいただきたいと思っておりますが、まず、このことについて、知事さんのお考えをお聞きしたいと思っております。

知 事

見晴台を設置して終わりということではありませんので、その後に体験型の環境教育と申し上げたと思っておりますので、見晴台をつくったら終わりということではありませんので、そこは私の言葉足らずだったかと思っております。

そして、わんぱく原っぱの件につきましては、今、町長おっしゃっていたように、5年というのは時間的猶予はないということだと思っております。26年度末に国道23号に接続する道路が完成する予定ですが、そういうのも見ながら、これまでもわんぱく原っぱの完成前でもいろいろ調査をしてきて、どういう業種が適しているのか、物流関係、あるいは農業関係や環境の関係の調査もしつつ、併せて、町長も私も口癖のように言っている、税収と雇用に結び付くものじゃないと駄目ですねというような観点から、このわんぱく原っぱは地域連携部担当ですが、雇用経済部の企業誘致も含めて庁内でいろんな企業に当たらせていただいております。こういうオープンな場なので申し上げられることとそうでないことがあります、今、そういう企業、税収、雇用に結び付くような、そして、これまでの調査や、この土地の特性を生か

した業種に対するアプローチを今行っているところですので、その成果が出てくれば、いずれにしても木曾岬町さんとしっかり情報共有をさせていただきながら進めていきたいと思っております。

個別には申し上げられないので、そういう形で木曾岬町さんと情報共有して進めていくと。

それから、全体のことは、昨年つくりました土地利用検討協議会で皆さんと知恵を出し合いながら、望ましい土地利用のことについて、更に議論を深めていきたいと思っております。

木曾岬町長

この分野については知事さんも専門分野でございますので、私どもとしては大いに期待をさせていただいておりますが、企業誘致の角度からいきますと、私ども、自ずとこの木曾岬干拓も木曾岬町内もそうですが、いろんなポテンシャルの非常に高いところだということで非常に期待はしておりますが、その反面、いろんな条件的な問題もありますので、そこらあたりもよく整理をしていただいて、一つでも1年でも早く具体的なお話を進めていただけたら、非常にありがたいと思っております。

そこで、一つ、最近の動きとして、航空機産業の特区のお話がございます。具体的に企業名を言ってもいいと思いますが、大起産業さんがございます。ここらも木曾岬にとっては非常に期待をする企業さんですが、この特区の問題も含めて、これからそれぞれの企業さんがいろんな展開を今考えられ、また、模索をされておると思いますが、ここらに合せて私どもとしては基盤整備、あるいは受け皿の体制づくりを準備していく必要があると思っておりますが、このわんぱく原っぱのことも、そういった面からしますと非常に名古屋港に近い、すぐ隣が鍋田、いわゆる貨物コンテナふ頭も目の前ですから、非常に魅力のある位置にあると思っておりますが、町内に、知事もご存じの「魔法のフライパン」、錦見鑄造さんがありますが、先般、お邪魔したときに、これからの戦略の中で木曾岬干拓どうなんだという話も出ました。しかし、時間が今少しかかるというお話をさせていただきましたが、私どもとしては、優良な企業さんを誘致するということが大事ですが、町内にある優良な企業さんに更に拡大・拡張していただくときに、その受け皿態勢も非常に大事だと思っております。ここらあたりもありますから、余計にこのわんぱく原っぱのことについても、1年でも早く具体的なお話を進めていただけたらと思っておりますので、このあたりのことについて、またお願いいたします。

知 事

まさに今年度から、県内の投資に関する補助金制度、いわゆるマイレージ制度やマザー工場化の制度などを大きく変えました。その心は、まさに今、町長がおっしゃっていただいたように、県内で既に操業していただいている皆さんが、小規模な投資でもいいからそれを積み重ねることによって、県内で維持や操業を確保、拡大していただくということを主眼に置いた制度ですので、そういう意味では、今、具体的に挙げた企業も含め、この周辺地域において既に県内で操業していただいている皆さんの更なる投資、拡張も視野に入れながら、企業誘致の県内投資の促進の案件としては、我々もアンテナを張って営業活動もしっかりしていきたいと思いますので、そういう意味では、特に地元の企業さんということになると、町の皆さんとの協力も欠かせないと思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

木曾岬町長

お願ひいたします。といいますのは、私、非常にショックなことがございました。ご存じの日本トランスシティ株式会社さんは隣の飛島村へ進出されるということで、今、現場のほうは工事が進んでおりますが、飛島の私どもの友だちからそんな話を聞いて非常にショックだったので、県庁へ出かけて地域連携部長さんにもお話をさせていただきましたが、三重県のトップ企業、看板企業さんが、名古屋港を目指しての進出だと思うんですが、それはそれで拡張ですから結構なんです、すぐ隣なんです。知事もご存じのように、すぐ隣、名古屋港あるいは鍋田ふ頭を隣に控えたこの木曾岬干拓があるわけです。それと、私ども背後地の木曾岬町があるわけです。だから、三重県として企業誘致も大事ですが、県内あるいは町内の企業さんに、私どもとしては木曾岬町があるじゃないか、木曾岬干拓があるじゃないかという、県としてのアプローチをかけていただきたいと思ったので、先ほど町内の優良な企業さんのことを申し上げたんですが、ぜひ、そこらあたりも情報を共有しながら、この木曾岬干拓地の有効利用、高度な土地利用にいち早く実現を図っていただけるように、知事さんにしっかりと頑張ってもらいたいと思っておりますので、そのあたりを重ねてお願ひをしたいと思います。

この企業誘致に当然リンクしますが、次のテーマの木曾岬干拓地のアクセス道路のことですが、私ども木曾岬町は県境地にある町で、県境にあるいろんな懸案の課題がずっと永年にわたって解決できずに今日まで来ましたが、私は、その象徴が木曾岬干拓の現状だと思っております。ですから、私ども木曾岬町単独ではなかなか道の開ける課題ではございませんので、何とか県さんに前面に立っていただいて、少しでも早く前進させてもらって、具体的にアクセス道路の実現を図っていただきたい。

知事もご存じだと思いますが、このアクセス道路については、1つは、伊勢湾岸道路のインターが目の前にありながら、私どもとしてはここへ乗り入れる道路がありません。三重県の県道の道路戦略の見直しのときでしたが、伊勢湾岸道路の開通式を目前に控えて、木曾岬町はどこから式典会場に行けばいいんだと私は申し上げました。というのは、伊勢湾岸道の開通式はこの木曾岬干拓の上で式典会場が設けられたんですが、町内にあるその式典会場へ、木曾岬の人たち、木曾岬の町長さんたちは、どこからその式典会場へ行けばいいんだと。三重県や隣接の市町、あるいは愛知県さんはそれぞれインターから上がってくることはできますが、木曾岬の人たちにどこからその式典会場へ行けばいいんだと私は当時申し上げました。まさにあれから12、3年になりますが、まだ遅々として道路どころか道路の計画、位置づけもまだありません。ぜひ、これをお願いしたい。そのあたりから知事さんにお考えをお聞きしたいと思っております。

知 事

愛知県や名古屋港管理組合と今、協議をさせていただいています。そういう意味では、今までは全くその協議さえも進んでいなかった中で、今から少し具体的な話を申し上げますが、町長は既にご存じの話だと思いますが、一定の具体化に向けて少しずつではありますが協議を進めさせていただいています。

まずは、その弥富木曾岬インターへのアクセスについて、伊勢湾岸道の側道の形で愛知県の県道交差点に接続するというルート、これが平行に側道で走ってタッチするものです。そういうものを一つご要望いただいていたたり、案をいただいていたのと、もう一つは、その北側で愛知県の県道にアクセスするという案、これまでどちらかという土地元の皆さんからご要望があったかと思えます。

それについて愛知県や名古屋港管理組合などと議論させていただいている中で、前者の側道でタッチするものについては、少し交通安全上の処理の問題で難しいのではないかという意見が出ているのと、次の北側でタッチするものについては、鍋田の堤防との関係で機能的に交通処理ができないのではないかという意見が今出ています。要は、弥富木曾岬インターと湾岸弥富インターにうまく木曾岬干拓地や木曾岬町の皆さんがしっかりと安全にスムーズにタッチできるようになることが大事だと思いますので、その湾岸の少し南側のところで、両方にタッチできるような名古屋港の臨港道路や、愛知県内の弥富の市道にタッチできるような方法がないかというようなことで、今、複数案を考えながら、愛知県と名古屋港管理組合と議論をさせていただいて

います。

その議論の進捗状況については、県のほうから町長にも少しご報告をさせていただいていると思っております。ですので、せつかく町内にあるのということで、弥富木曾岬インターに直にタッチできるのがベストではあるものの、それが安全でなかったり、あるいは、コストがたかさんかかったり、結果、町内の皆さんが交通事故などの不安などがあったりすると、これは意味がないと思いますから。そういう意味で今まで愛知県が、今申し上げたような具体的な議論に全く乗ってこなかったわけですが、事務方も一所懸命頑張ってくれていまして、少しずつそういう具体的なルートを議論するようなところまで今来ています。

いずれにしても、10何年来の木曾岬の町民の皆さんにとっては関心の高い事項でありますから、我々もそういう形で引き続き、愛知県と名古屋港管理組合に対して、そのアクセス道路のこと、愛知県内のことではあるものの、我々にとっても死活問題だということできっちり話をしていきたいと思っています。

併せて、愛知県や名古屋港管理組合も、これは先ほど来町長がおっしゃっていただいた最初の話題に戻りますが、木曾岬干拓地自体の土地利用が魅力的なものではないと、そういう道路のルートを設置することについても、なかなか前向きになっていかないでしょうから、その土地利用を魅力的にしていくということと、それから、先ほどの道路について具体的な協議をしつかり進めていく、この2つを両輪としながら、我々もしっかりこれからも取り組んでいきたいと考えています。なので、完璧な案ではないかもしれませんが、そういういろんな議論をさせていただいております。

木曾岬町長

かなり具体的にお話をいただきまして、本当に期待をさせていただいております。

そこで、今、北側で接続をとというようなお話を知事さんからお聞きしましたが、その実現性もそうですが、ここから草林になっておりますので確認ができないかもしれませんが。写真にあるんですが。今、このあたりですが、愛知県側の鍋田干拓の堤防の工事が、これはインターのところですが、今始まっております。だから、このインターから北へ上るあたりなので、これは愛知県側です。整備が始まっております。

それから、このあたりが今工事が始まっております。先般、この現場へ行ったのですが、ちょうどここらあたりですが。私どもとしては、この堤防の補強を愛知県さんがなされるということは、また、そこにこの道路の問題を

提起したときに、非常にそれが大きな障害になるのではないかと。私どもとしては、三重県さんが、愛知県でそういった計画があるとしたら、早くそのあたりを情報をつかんでいただいて、愛知県さんに具体的な道路のお話をさせていただければ、それを念頭に置いたこういった愛知県さんの補強工事がなされるんじゃないかと思っております。取り急いでちょうど今日の1対1対談の直前でしたので、急ぎよ、このお話を知事さんに見ていただこうと思って、そこらあたりもあって、この現場でということになったんですが。

私どもとしては、知事さん先ほど北側とか南側のことをおっしゃっていただいていたのですが、愛知県側がこの堤防を、それこそ万里の長城です、絶対崩させません。だから、この形態を保存しながら、どうタッチをしていただけるかということ具体的に、技術的な問題があるかもしれませんが、そこらあたりをぜひ、愛知県は日々動いてますから、私どもとしては焦らざるを得ません。そこらあたりも知事さんに実感として見ていただきたいと思い、今日、こんなセッティングをさせていただいたようなことでございます。

このわんぱく原っぱの今後5年間というのはあつという間に来ますから、具体的に企業の誘致、そして、道路計画を早く位置づけをしていただいて、取組をお願いしたいということが、今日は知事さんに一番強くお願いをしておきたいと思っております。

それと、次の話になりますが、メガソーラーがいよいよ発電が始まってきますと、おそらくアセスのしていない地域のお話が次のテーマとして出てくるかと思いますが、ここらあたりも1年でも早く入っていかないと、私どもとしては、ますます「チュウヒ」との共存共栄もありますが、具体的なお話をさせていただく必要があると。

といいますのは、先ほども地域連携部の水資源・地域プロジェクト課長さんともお話していましたが、盛土の問題、土をどうするかという問題も出てきますので、常にどんどん時間とともに周りの状況が変わってきますから、少しでも早く具体的な検討を始めていただきたいということを最後にお願いしておきたいと思っております。

干拓に関する問題はここらで一区切りをつけたいと思っております。

2 一級河川鍋田川の管理について

木曾岬町長

鍋田川は、知事さんもお存じだと思いますが、伊勢湾台風後に木曾川の河川改修に伴っての移転地として、埋立造成されて今の形態になってきたわけですが、この鍋田川の形態は、河川でありながら地盤沈下が伊勢湾台風後、

かなり急速に進み自然排水ができなくなったというようなことから、閉鎖性の水域の形態に変わりました。そんなことで、鍋田川の上流と下流の排水機場によって強制排水をしておりますが、この管理は三重県と愛知県、両県で管理をいただいています。本来、一級河川であれば国の問題でもあるのではないかと考えておりますが。

今日は、そういった中でこの鍋田川の水質が非常に悪化してきておりまして、この問題を知事さんにお話をさせていただいて、水質改善に取り組んでいただきたいというようなことから議題に上げさせていただきました。

ちょうど国交省さんが、水門の改修・改良工事をこの25年度から28年度にかけて始めていただくことになっております。

そのようなことから、私どもとしては、この機会に木曾川の水、これは鍋田川の清浄用水といった角度からこれを取水して、鍋田川の水質改善を図っていただきたいということをまずお願いをしたいと思っておりますが、そこらあたりからまず知事さんのお考えをお聞きしたいと思えます。

知 事

この水質、いろんな工事や河川水の滞留によるというよりは、町長もよくご存じのとおり、生活排水による水質の悪化というのがやはり一番大きいのではないかと考えています。他県のことですが、木曾岬の場合は污水处理、生活排水については100%整備済であります。弥富市のほうが平成23年度末で51%ということで、少し生活排水の整備も遅れていることもあって、したがって、ハード面でどうこうというより、水質については、我々、いろんな部分において、生活排水の原因が大きいのではないかと考えていますので、地域において取り組んでいただきたいということもさることながら、愛知県に対して必要な調整をしっかりとしていきたいと。町長から、そういう水質の改善についてのお話があったということを受けて、さらなる生活排水の整備について、愛知県と必要な調整をしていきたいと考えています。

木曾岬町長

この鍋田川の問題については、特にこのように閉鎖性になってしまって、知事さんよくご存じで、今お話いただきましたが、特に農地もございまして、あるいは、一般家庭からの生活排水ということもございまして、ほとんどが隣からののですが、私どもとしては両県で管理をしているというものの、やはり三重県側として清浄用水を確保していただいて、そして、強制排水によって鍋田川の水質を浄化をしていくということ、ぜひ、これは愛知県さんとも協議をいただいて、そして、一級河川であるだけに国にもこれは上げてい

ただが必要があるのではないかと考えています。

そして、ちょうど今、国交省さんが水門の改修工事に入ってきますので、そこらとも合わせて協議していただけると、早く具体的なお話を進めていただけるのではないかと考えていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、鍋田川の右岸堤防、これはイコール南部のほうについては木曾岬海岸、海岸堤防でございまして、海岸堤防と鍋田川の右岸堤防は県管理でございまして、ここらあたりのことについてお話を伺いたひと思ひます。特に、ちょうどこの木曾岬干拓の背後になります、木曾岬海岸、今は鍋田川の右岸堤という位置づけになっておりますが、木曾川の左岸堤を国交省さんで高潮堤防ということで7.2メートルほどの高さを確保していただひ、そして、5年計画で河口部から国道23号までの堤防の耐震補強工事を進めていただける手はずになってきました。

そのようなことから、その延長線上にある鍋田川の右岸堤防の、特に高さもそうですが、耐震補強をぜひ早く取り組んでいただきたひし、私どもとしては、一体の堤防ですから、愛知県の鍋田干拓ですら補強工事をするんですから、私ども木曾川なり伊勢湾の最前線にある堤防ですから、ぜひこれを私どもが安心できる堤防にしていただきたひと思ひますので、そのあたりからまずお願ひいたします。

知 事

まさに今、町長がおっしゃったように、こちら側の木曾川の左岸は国が行うということで、鍋田川の改修については、平成18年度に地盤沈下分のかさ上げや樋門の改修が完了しましたが、実は耐震調査はしていませんでした。ですので、来年度、鍋田川の右岸について、河口部から排水機場の下樋門までの地質調査を行って、どうひ補強が必要かということについて検討をさせていただきますと思ひます。

木曾岬町長

特に国交省さんのほうで左岸堤防を高潮堤防、そして、耐震補強をこの国道23号に向けて行っていただくことになってきていますが、歴然としてますが、高さの問題、耐震の問題が私どもとしては心配しております。特に、高潮もそうですが、津波の遡上を考えたときに、伊勢湾台風のときでもそうでしたが、まさに伊勢湾から見たら直撃の海岸あるいは河川堤になりますので、ここの耐震補強をしていただかないことには私どもとしては安心できないということでございまして。特に低地な海拔マイナス1.何メートルの私どもの町でございまして、この堤防が唯一の生命線です。そのあたりをしっかりと

お願いしたいと思っていますので、ぜひ、知事さんのほうに再度お願いをしておきたいと思っています。

知 事

先ほど申し上げましたように、来年度、地質調査をさせていただいて、どういう補強などが必要かというようなことについて、しっかり検討し、その検討について木曾岬町さんと情報共有させていただいてと思っていますので、よろしくお願いしたいと思います。

木曾岬町長

国交省さんの話になりますが、隣の長島の堤防が耐震補強が延長2,000メートルだと思ったんですが、私ども木曾岬町は耐震補強がわずか200メートルです、今、計画があるのは。それと、県さんにおいても、長島の海岸堤防も嵩上げをされるというようなことも聞いておりますが、なぜ同じ伊勢湾に面した海岸に位置しながら、長島さんがそういった補強工事が進む、私どものほうは遅々として進まないのか、そこらあたりは本当に申し訳ない表現ですが、ストレートにお伺いしたいと思っています。いかがでしょうか。

知 事

個別の箇所の事業の実施の順番などにつきましては、やはり今の損傷や老朽化の状況、あるいは、その背後地の人家の数とか様々な状況の中で、限られた財源で優先順位をつけてやらせていただいています。そういう意味では、その順番について、地元の中では納得がいかないという部分もあろうかと思いますが、今、少し申し上げさせていただいたように、損傷や老朽化、背後地の状況も踏まえて優先順位をつけさせていただいておりますので、また、地元の建設事務所のほうもよくコミュニケーションさせていただいて、地元の皆さんと情報共有させていただければと思っていますので、ご理解いただければと思います。

木曾岬町長

段々と時間が押してきましたが、私ども常に申し上げております、木曾岬町は三重県であって愛知県側に本当に密接に関わっている県境地にある町であるがゆえに、遅々として進まないこの懸案の問題は、ぜひ、三重県さんにおいて1年でも1日でも早く改善・解消を図っていただきたい。そして、一体的な地域づくりをすることが私ども木曾岬町にとっては非常に大事だと思っていますので、再度お願いをしたいと思っています。

この木曾岬干拓のこともしかりですが、三重県さんと桑名市さんと私ども木曾岬町で今の土地利用の検討委員会を設けていただいておりますが、ここに愛知県あるいは弥富市さんが参画をしていただけない、この現実が物語っていると思います。ですから、三重県として、知事さんとして、しっかりと愛知県さんにそこらあたりもお話をいただいて、ぜひ、私ども木曾岬町の道筋をつけていただきたい、そして、道を開いていただきたいと再度お願いしたいと思っておりますが、そこらあたりについてはいかがでしょうか。

知 事

協議会スタートのときに愛知県や弥富市が入るのか入らないのかということで、我々も愛知県さんとも協議をさせていただいておりますが、協議会自体は三重県の副知事がヘッドでやるということもあって、会議自体にはご参加をいただきませんが、その利用の中身については愛知県とも話し合っておりますし、そういう中で、愛知県や弥富市もしっかり参画していただいて議論が進んでいくように努力していきたいと思っております。町長が今おっしゃっていただいたご懸念の点などについても、なかなか愛知県さんも難しいところがありますが、これは前からもおっしゃっていただいていることから、協議会には入ってませんが、そういう形で議論は進めさせていただいておりますので、しっかり巻き込んでコミットしてもらうところはコミットしてもらおうべく努力してやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

木曾岬町長

ぜひお願ひしたいと思ひしております。特に愛知県さんとの問題は、私ども県境問題のときに本当に先輩の方々、ご苦勞いただきました。私自身も血圧が上がるような、体調を崩すような思いである当時、それに関わった一人ですが、愛知県さんの対三重県、あるいは対木曾岬に対してのスタンスが、私どもとしては非常にもどかしい、歯がゆい思いがございます。

そんな中で、特にこの県境のときに様々なお話があったと思ひます。知事さんにもそのお話は届いておるかと思ひますが、道路がその最たるものでございます。愛知県との県境合意の中で道路用地の問題、ルートの問題もはっきりと合意事項の中に明記されておりながら、10 数年経っても全くその計画の位置づけもないというようなことでは、私どもとしては本当に何のための県境問題のときの議論なんだ、協議だったんだ、それが私は本当に木曾岬のこれからの行く末を思うときに、愛知県さんときちっとそういったことをお約束したことは実行していただく、それはやはり大事だと思ひしておりますの

で、隣付き合いも私は大事にしていきたいと思っておりますが、主張すべきところは主張していただき、道を開いていただきたいと思っておりますので、最後にそのあたりの知事さんのお考えをお聞きしたいと思っております。

知 事

町長のおっしゃるとおりですので、愛知県は愛知県の中で、限られた財源をどういうふうに優先順位をつけてやっていくんだという。そして、県民の皆さんにどういうふうに説明していくんだというのがあるかと思いますが、とはいえ、我々も、実際に県境を接して生活している木曾岬町の皆さんもたくさんおられますので、そういう意味でしっかり主張すべきところは主張して、一朝一夕にいかないものもあると思っておりますので、粘り強く我々も交渉を進めていきたいと思っております。

木曾岬町長

知事さん本当に就任以来、積極的に県下市町を回っていただき、そして、いろんな人たちとお会いをいただいて、トークの時間を取っていただくとか、こういった1対1対談ということで、それぞれの市町あるいは地域での声を直接お聞き取りいただいて、本当に私どもとしては、非常に行動力のある知事さんだということで非常に期待もし、うれしく思っております。それだけに、私どものようなこういった本当に難しい問題を抱えた町の実情を知事さんにお訴えをさせていただいて、私どもとしては、三重県さんと私ども木曾岬町がしっかりと問題を共有し、連携を取って、協創を私どもとしては期待をさせていただいておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

本当に今日はありがとうございました。

(3) 閉会あいさつ

知 事

加藤町長、どうも今日はありがとうございました。また、お聞きいただきました町議の先生方もありがとうございました。

1対1対談、今年で3年目であります。ずっと回ってきたわけですが、今日のこの小雨の中で風が吹き、重機が動く中でやる1対1対談は、間違いなく初めてですし、多分一生忘れられない1対1対談になると思っております。

そういう意味では、中身も加藤町長には1対1対談3年間のうち、毎回粘り強くお話をいただいている懸案事項でございます。また、県庁にお越しの際にも、私や副知事あるいは地域連携部長に、アクセス道路をはじめ、そういうことを粘り強くおっしゃっていただいております。そういう一生忘れら

れないこの1対1対談の今日の時間でありましたので、そういう意味ではしっかりと我々も愛知県に対してもそうですし、県の中でもそうですし、また、この事業者をやっていただいている丸紅さんに対してもそうですし、粘り強くしっかりと少しでも思いを反映できるように頑張っていきたいと思っておりますので、今後とも協力しながらよろしくお願ひしたいと思ひます。

本日は、どうもありがとうございました。

木曾岬町長

知事さんから本当に温かい、また、うれしいお話をいただきました。本当にありがとうございました。

本当に申し訳なかったと思ひますが、私はやはり現場でこの実態を見ていただきながらお話をさせていただきたいと思ひておりました。ところが、私のほうがむしろドタバタしてしまひまして、なかなか知事さんにきちっとお話をさせていただけなかった部分もあろうかと思ひます。

なお、この11月4日に予定しております25周年の記念式典には、お忙しい中ですがお越しいただいて、知事さんからご講演を賜りたいと思ひておりますので、よろしくお願ひいたします。

本当に今日はありがとうございました。